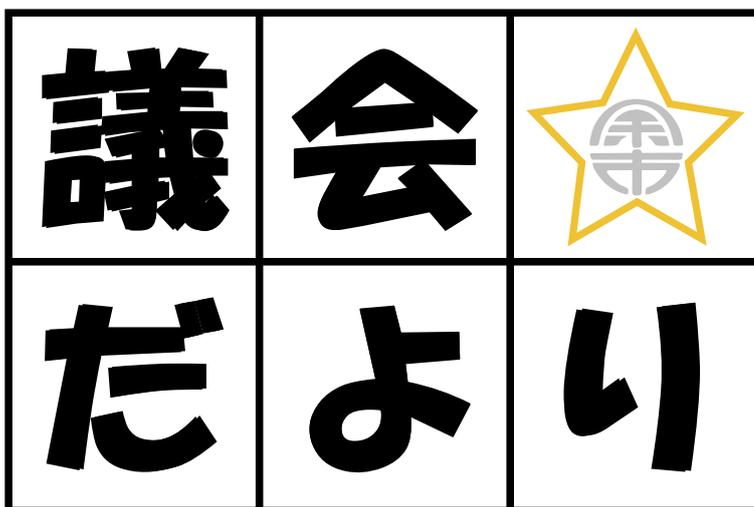


よいち町

2021.9
No.200



特集 創刊200号記念 P2~3

第2回定例会・第3回臨時会の審議結果

○審議結果 P4~6、14

- ・令和2年度各会計補正予算・令和3年度各会計補正予算を可決
- ・余市町手数料徴収条例の一部を改正する条例案を可決
- ・余市町国民健康保険税条例の一部を改正する条例案を可決

○意見案 P6

- ・林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める要望意見書など3件の意見書を可決

○常任委員会の動き P7~8

○一般質問 P9~13

- ・8議員が町政全般について10項目を質問

議会だよりは今号で 創刊200号を迎えました

余市町議会だよりは創刊から49年が経ち、今回200号の発行を迎えました。この節目に一部レイアウトを変え情報発信に努めてまいります。今号では特集として創刊から節目の50号ごとを振り返ります。



議会だより 創刊号

発行：昭和47年5月10日

編集：議会報編集特別委員会

委員長：伊藤勝美 副委員長：三上孝

委員：伊勢行雄、打越正夫、安崎賀積、
西崎正典、駒谷睦男

主な記事

- ・創刊挨拶
- ・一般質問10議員登壇
- ・北海道新幹線鉄道の早期完成と後志小樽經由の路線決定に関する要望決議可決

議会だより No.50

発行：昭和59年3月1日

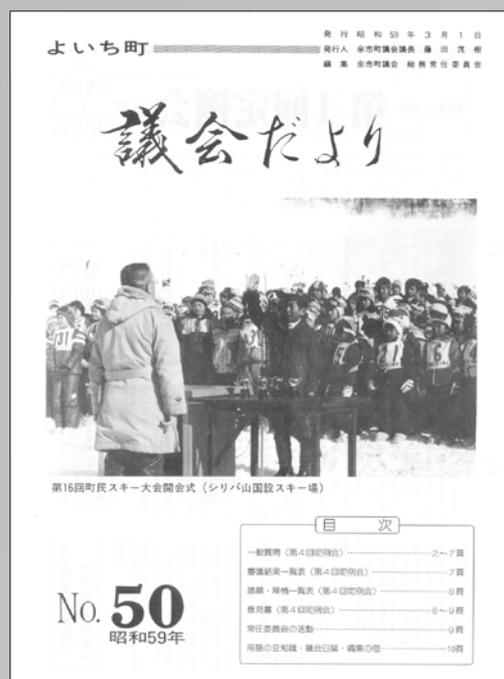
編集：総務常任委員会

委員長：松平武敏 副委員長：佐藤博

委員：納谷準一、吉田廣之丞、山田幸雄、
高田重幸

主な記事

- ・一般質問6議員登壇
- ・常任委員会の活動
- ・用語の豆知識



発行200号を迎えて

議会だよりは、創刊時は議会報編集特別委員会が編集を担当しましたが、昭和48年発行の第9号から総務常任委員会が担当、以降現在の総務文教常任委員会が担当し、令和元年8月の改選から現在の構成で編集を担当してきました。

創刊した昭和47年は、大川小学校の校舎改築、フゴツペ洞窟の永久保存施設完成、また、その年の冬季オリンピックで笠谷幸生選手が金メダルを獲得し祝賀パレードが行われた年でした。議会だよりはそのような事業に関する議会での審議内容を町民の皆様にお届けする広報誌として発行してきており、今後さらに充実させていきたいと考えています。

総務文教常任委員会

- 委員長 野呂 栄二
 副委員長 山本 正行
 委員 吉田 豊
 委員 内海 博
 委員 茅根 英
 委員 大物 翔



総務文教常任委員会

よいち町

議会だより

1988年9月1日 発行
 余市町議会
 編集
 総務常任委員会
北海道余市町余市1-1-1 213-0202
 TEL: 0125-211-2132
 編集番号 045

円山公園管理棟新築工事 (右上は完成図)

～おもな内容～

創刊100号	2P
一般質問に11議員登壇	3～11P
定例会で決まったこと	12～14P
臨時会で決まったこと	15～19P
議会日誌	20P
編集の意	20P

No.100
平成8年

議会だより No.100

- 発行：平成8年9月1日
- 編集：総務常任委員会
- 委員長：渡辺正治 副委員長：堀幸次郎
- 委員：吉田豊、野呂栄、辻井潤、藤田賢一、葛西庸三
- 主な記事
- ・創刊100号
 - ・一般質問11議員登壇
 - ・税条例の一部を改正する条例（国民健康保険税率改正）の可決

よいち町

議会だより 2009. **3**
No.150

～子育てサークル活動～

2月3日（火）、野町青少年ホームにおいて、子育てサークル「のびりコアラクラブ」の集まりが開催されました。この日は、自分たちならではのイベントのほか、お誕生日、絵本読み聞かせなどが行われました。

のびりコアラクラブには32組（39名）の親子が参加し、遊びおしゃべりを通じ子育てに関する情報交換を行っています。また、町外からの参加者も多数参加し、子育てのつながりを感じながら子育ての楽しさを共有する場となっています。

12日開催の国民健康保険料の決定
 13議員が町政全般について17項目を質問
 平成19年度総合計画の計画決定
 老人医療費の助成に関する条例の廃止
 国民健康保険料の改正
 医師会卸売改正の賛否を求める臨時会など、6件の臨時会を可決

議会だより No.150

- 発行：平成21年3月1日
- 編集：総務文教常任委員会
- 委員長：近藤徹哉 副委員長：吉田豊
- 委員：野崎奎一、渡辺正治、納谷準一
- 主な記事
- ・一般質問13議員登壇
 - ・老人医療費の助成に関する条例を廃止する条例の可決
 - ・行政報告「(株)余市宇宙記念館の解散について」

審 議 内 容

議案に対する各議員の賛否一覧

地方自治法第96条で定める議決事件について、各議員の賛否結果が分かれた案件（欠席・退席含む）を掲載しています。

第3回臨時会 議案に対する各議員の賛否一覧表

賛成：○ 反対：× 欠席：欠

件名	審議結果	明政会					日本共産党議員団		よいち未来		公明党		会派議員				
		藤野博三	内海博一	庄巖龍	彫谷吉英	茅根英昭	近藤徹哉	安久莊一郎	大物翔	中谷栄利	山本正行	土屋美奈子	岸本好且	寺田進	白川栄美子	野呂栄二	吉田豊
専決処分事項の承認を求めることについて (令和2年度余市町一般会計補正予算(第12号))	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
専決処分事項の承認を求めることについて (令和2年度余市町介護保険特別会計補正予算(第4号))	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
専決処分事項の承認を求めることについて (令和2年度余市町国民健康保険特別会計補正予算(第3号))	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
専決処分事項の承認を求めることについて (令和2年度余市町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号))	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
専決処分事項の承認を求めることについて (令和2年度余市町公共下水道特別会計補正予算(第2号))	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
専決処分事項の承認を求めることについて (令和2年度余市町水道事業会計補正予算(第3号))	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
専決処分事項の承認を求めることについて (令和3年度余市町一般会計補正予算(第1号))	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
令和3年度余市町一般会計補正予算(第2号)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
令和3年度余市町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
余市町移動通信用鉄塔施設条例案	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
工事請負契約の締結について (令和3年度豊浜橋架替工事)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○
町有財産の取得について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○

第2回定例会 議案に対する各議員の賛否一覧表

専決処分の報告について	了承	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
令和3年度余市町一般会計補正予算(第3号)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
令和3年度余市町介護保険特別会計補正予算(第1号)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠

※中井寿夫議長は採決には加わりません。

要望意見書の審議結果

第2回定例会で提出のあった意見案についてお知らせします。

件名	議案の提出者	審議結果	意見書の提出先
林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める要望意見書	議会運営委員会委員	原案可決	内閣総理大臣ほか関係大臣 衆議院議長・参議院議長
新型コロナウイルス感染症対策と地方財政の充実・強化に関する要望意見書	議会運営委員会委員	原案可決	内閣総理大臣ほか関係大臣
北海道最低賃金改正等に関する要望意見書	岸本好且議員ほか2人	原案可決	北海道労働局長
安全・安心の医療・介護の実現と国民の命と健康を守ることを求める要望意見書	中谷栄利議員ほか1人	否 決	
コロナ禍による米危機の改善を求める要望意見書	中谷栄利議員ほか1人	否 決	

常任委員会の動き

開会中における各常任委員会の活動状況について、主要な調査事項などをお知らせします。
 なお、各常任委員会の記録は、町立図書館に配置しておりますので、ご利用ください。

総務

文教

新たな余市町総合計画の策定 について調査を行いました

【第18回】

(令和3年4月27日開催)

○新たな余市町総合計画の策定
 について(所管事務)

第4次余市町総合計画の計画期間が今年度で終了となることから、現在策定作業を進めている、新たなまちづくりのための総合的な計画に関わる策定体制やスケジュール等について説明を受け、審議しました。

○学校運営協議会(コミュニティスクール)について(所管事務)
 保護者や地域住民等の学校運営への協力・支援を促進すること、信頼関係を深め、学校運営改善や児童生徒の健全育成に
 取り組み、持続可能な推進体制を構築することを目的に、新たに設立を予定している協議会について説明を受け、審議しました。

【第19回】

(令和3年5月19日開催)

○成人式の在り方について(所管事務)

民法の改正により令和4年4月1日から施行される成年年齢の引き下げに関わり、成人式の在り方に関する成年予定者へのアンケートについて説明を受け、審議しました。

○余市町移動通信用鉄塔施設設置事業について(報告案件)

栄町東の沢地区の携帯電話不感度を解消するため設置する移動通信用鉄塔施設設置事業について報告を受けました。

○包括連携協定の締結について(報告案件)

産学官の連携を通じ、資源や特色を生かした交流、活用を図り地域の活性化、人材の育成に寄与することを目的とした包括連携協定について報告を受けました。

○旧余市福原漁場防災設備改修事業について(報告案件)

経年劣化により更新が必要となった消防設備の改修事業について報告を受けました。

【第20回】

(令和3年6月30日開催)

○余市町過疎地域持続的発展市長村計画の策定について(所管事務)

本年4月1日施行の「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」に基づく新たな市町村計画の策定に関わる計画素案について説明を受け、審議しました。

○ふるさと納税について(報告案件)

令和2年度の実績等について報告を受けました。

○(仮称)余市循環線実証運行について(報告案件)

余市町地域公共交通網形成計画に基づき余市協会病院線の見直しに関わり、本年10月に行われる実証運行について報告を受けました。

○余市川の洪水浸水想定区域図の修正について(報告案件)

余市川浸水想定区域図の修正に伴う本町の防災ガイドマップの修正について報告を受けました。

民生

環境

新型コロナウイルスのワクチン 接種について調査を行いました

【第20回】

(令和3年5月21日開催)

○令和2年度一般ごみ・資源物の収集処理実績について(所管事務)

令和2年度における一般ごみ及び資源物の区分ごとの収集処理実績や過去5年間の一般廃棄物の収集処理量の推移と資源化等の取組、ふれあい収集の実施状況について説明を受け、審議しました。

○北しりべし相談支援センター事業実績について(所管事務)

特定非営利活動法人しりべし圏域総合支援センターに委託している障がい者の自立や社会生活へ適応する取組などの相談支援業務について、令和2年度の相談件数や支援方法、支援内容の実績について説明を受け、審議しました。

委員会報告

○小樽・北しりべし成年後見センター事業実績について（所管事務）

後志6市町村を圏域とした広域での成年後見制度の利用促進と権利擁護に関する総合的な相談や支援について、令和2年度の相談件数、申立て件数、後見人の登録状況について説明を受け、審議しました。

○子育て世帯生活支援特別給付事業について（報告案件）

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、低所得の子育て世帯に対し、その実情を踏まえた生活の支援を行う観点から、食費等の支出の増加の影響を勘案し、子育て世帯生活支援特別給付金を支給する旨の報告を受けました。

○新型コロナウイルス感染症対策について（報告案件）

国の緊急事態宣言により、北海道が緊急事態措置の対象となつたことに伴う本町の対応として、34の公共施設の休館及び貸館休止についての報告、また、高齢者向けのワクチン接種について、接種可能枠の拡大のため土、日曜日のワクチン接種についての報告を受けました。

【第21回】

（令和3年7月12日開催）

○新型コロナウイルス感染症対策について（所管事務）

緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発出に伴う、本町の対応、庁舎内における新型コロナウイルスに関する対策連絡会議の経過、町内のワクチン接種の経過及び接種状況について説明を受け、審議しました。

○小樽・北しりべし消費者センター事業実績について（所管事務）

住民の消費生活に関する相談に対し、専門的見識に基づく助言や、事業者と消費者との間に生じた苦情の処理などの相談業務の令和2年度の実績について説明を受け、審議しました。

○町営斎場建替事業について（報告案件）

早期の新斎場供用開始を目指し、建設に向けて改めて専門家の評価を得ながら進めるため、コンサルタント会社への業務委託を検討している旨の報告を受けました。

産業

建設

町道の現地調査を行いました

【第17回】

（令和3年4月28日開催）

○令和3年度町道側溝布設及び舗装工事について（所管事務）

令和3年度に予定している町道の側溝布設及び舗装工事、計7か所について、現地調査の上、説明を受け、審議しました。

○余市町再生可能エネルギービジョンについて（報告案件）

脱炭素社会の実現に向けた取組や分散型電源施設整備による非常時の電源確保対策など、再生可能エネルギー活用を視野に入れたエネルギー構造の転換、高度化に向けた検討が急務となっていることから、町内で活用可能な再生可能エネルギーの量質及び場所を明らかにするとともに、公共施設の省エネ対策や災害時対応にもつながる実効性



○道の駅再編整備について（所管事務）

令和2年度に実施された2調査業務の結果の概要、さらに、道の駅再編整備において事業計画段階から民間提案制度の活用が必要と認識していることから、早急に町として民間提案制度を整備し、その制度に基づき、必要な合意形成手続を経た上で提案募集、事業者選定に進みたい旨の説明を受け、審議しました。

○地域産業マリアージュ推進事業について（報告案件）

地方創生推進交付金を活用し令和2年度に実施された事業の実績及び令和3年度の事業予定について報告を受けました。

○余市町感染拡大防止対策支援助成金について（報告案件）

国の緊急事態宣言に伴い北海道が要請する営業、酒類提供時間短縮及びガイドライン業種別遵守に協力する事業者に対し独自に支給する支援助成金について報告を受けました。

【第18回】

（令和3年6月8日開催）

○6次産業化推進に係る取り組み状況について（所管事務）

PR活動やワイン推進活動、加工品創作活動支援など、6次産業化の推進に係る令和2年度に実施された事業の実績及び令和3年度の事業予定について説明を受け、審議しました。

○令和2年度除排雪等実績報告について（所管事務）

令和2年度における除排雪等の実績について説明を受け、審議しました。

一 般 質 問

第2回定例会での一般質問は、8人の議員から10件の町政全般に対する質問がありました。
一般質問は、一問一答方式により質問、答弁を含め45分以内の時間制限で行い、議会だよりに掲載している内容は、質問した議員みずからが要約し、その原文を掲載しています。

大物 翔議員

(日本共産党議員団)

中通り2号線の拡幅工事に合わせた登川線の一部着工の必要性について

質問 大物議員 中通り2号線が道道へ昇格し、今年は引渡しのための台帳作成に向けた作業が行われており、今後の歩道設置や拡幅が大いに期待されるが、新しい道の駅の移転が進められれば、登街道を中心とした地域一体の交通量が今まで以上に増大傾向を示すのは明白であり、今後農道離着陸場付近に後志道の出入口が設置されることを考えれば、既存の道路網では対応し切れず、地域居住者と都市間移動者の動線のすみ分けが必須事項となることから、この拡幅工事と同時に登川線の未着手箇所について、本来は全線着工が最も望ましいが、特にこれの木通り、中通り2号線間の一部着工を行うべきと考えるが見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 黒川町中通り2号線が道道昇格路線としてその整備が計画されているところ

であり、当該路線の道道昇格の進捗と整合を図りつつ、今後の交通動向に注視しながら関係機関とも協議します。

質問 大物議員 先日の総務文教常任委員会でも話したが、結局のところインフラが足りなく、企画の部門が中心になっているところと協働して、交通量分散させようと実証実験をやった、登街道のほうはある程度緩和できたが、結局南2線が潰れてしまったという話をしたところであり、今後予想される渋滞に対してどういう対策を取ろうとしているのか伺いたい。

答弁 齊藤町長 登川線については都市計画は決定されているものの、予定されている区域はまだ民有地で、土地取得もされておられませんし、道路の形状に関してもあれだけ大きな場所が町なかにあるということは今後のインフラ整備の話になった場合、まとまった土地も必要になってくるから、そういう議論も絡んでいきますし、ただ単に道路を真っ直ぐ敷けばいいものではないという論点も絡んできますので、より詳細な議論が必要と考えていますが、他方で、渋滞の分散に関しては昨年度から一方通行化するだとか分散させるだとかをやっておりますが、

その結果も踏まえつつ引き続き効率的に分散させていきます。



町道中通り2号線

山本 正行議員

(よいち未来)

人事評価制度について

係る各評価区分の割合と人数等の実績について。
③人事評価結果の検証を踏まえた町としての課題と今後の運用について。

質問 山本議員 人事評価制度では、職員との面談及び各評価事項における最終評価の説明が適切に行われていると考えるが、次の事項について伺いたい。
①人事評価の実施状況について。
②令和2年度の人事評価結果に

答弁 齊藤町長 ①年度当初に所属長が設定した組織目標に基づき個人目標を設定後、10月に中間面談、2月に期末自己評価、最終面談を行い、評価を確定し、最終的に人事評価連絡調整会議を経て評価を確定しています。
②令和2年度の実績について、人数は個人の特定につながりかねないので、割合ではS、極めて良好、ゼロ%、A、特に良好、2.

一 般 質 問

3%、B、良好、90.8%、C、やや良好、3.2%、D、良好でない、3.7%です。

③導入から5年が経過して一定程度浸透しておりますが、プロセスを通じて職員の成長を支援することで、結果人事評価に対する理解の向上につながると考えており、今後も適切な運用と活用を図ります。

職員のメンタルヘルスケアについて

質問 山本議員 職員のメンタルヘルスケアについて、次の事項を伺いたい。

①メンタルヘルス不調者の早期発見に向けた初期対応と取組について。

②メンタルヘルス不調を理由とする長期病気休暇の取得状況について。

答弁 齊藤町長 ①所属での初期段階でのフォローのため研修を実施し、また、総務課にメンタルヘルス等の相談員3名を配置し、さらに、ストレスチェック制度を導入し、高ストレスの者は本人の申出により産業医の面談につなげています。

②30日以上休暇取得者は令和2年で職員全体の3.8%です。

余市町独自の事業者支援金の創設について

質問 山本議員 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言により飲食店等に経済的に大きな影響が及んでいるが、町独自の支援制度を創設する考えについて伺いたい。

答弁 齊藤町長 プレミアム商品券や北海道の支援制度への上乘せ助成のほか、家賃等助成など町内経済循環と事業者支援に努めており、今後の経済状況の動向も注視し、各種施策を進めます。

寺田 進議員 (公明党)

中の川の治水対策について

質問 寺田議員 昨年11月、中の川の増水により、中の川橋周辺が浸水する事態が発生したが、住民が安心、安全な生活を送っていただけるよう、以下伺いたい。

①中の川の現在と今後の治水対

策について。

②国土交通省北海道局の予算決定概要の中で、河川管理者等による対策だけでなく、流域に關わるあらゆる関係者が流域全体で取り組む流域治水を推進するところがあるが、町としてどのような連携を取られているのか。

答弁 齊藤町長 ①中の川は北海道が管理する2級河川で、北海道が洪水対策を実施しており、今後も河川の巡視を行い、適切な維持管理に努めると伺っています。

②本町における北海道が管理する河川においては、流域治水協議会を設立しており、今後具体的な連携体制等について協議を進める予定です。

質問 寺田議員 昨年11月、黒川町の農地で氾濫が発生したとき、役場としてどのような体制で臨んだのか。

答弁 齊藤町長 役場ではパトロールをし、北海道では土のうを積む対策をしています。

質問 寺田議員 中の川樋門はどのような事態が起こったときに誰が操作するのか。

答弁 齊藤町長 北海道が樋門管理しています。

質問 寺田議員 中の川、黒川等の洪水対策を様々な北海道と連携の上やられていると考えるが、国土交通省北海道局が様々な政策を出していることから、町としても連携を取る必要があるのではないか。



中の川樋門

答弁 齊藤町長 流域全体として治水を考えることが進んでおり、町も昨年度流域治水協議会を設置し、近隣町村、関係機関も入った体制で流域治水をやっていく考えです。

質問 寺田議員 余市川洪水浸水想定区域の誤りについて、防災マップの変更があると思うが、いつ頃町民に周知できるのか。

答弁 齊藤町長 北海道から私も説明を受けており、エリアは合っているが、深度が変わったというところで報告とおわびがあり、その旨所管委員会に報告し、ハザードマップの変更は北海道で行うと報告を受けており、変更ができ次第町内にも再配布する流れになると考えます。

安久莊一郎議員 (日本共産党議員団)

加齢による難聴者への町による補聴器助成について

質問 安久議員 本町は、高齢者にとって住み慣れた地域として、能力に応じ自立した日常生活

一 般 質 問

活を営むまちづくりを目指して
いますが、加齢による難聴で苦
しむ人が年々増え、2年前に本
町議会で採択された意見書でも
加齢性難聴は日常生活を不便に
し、コミュニケーションを困難
にするなど生活の質を落とす原
因になるばかりか、最近では鬱
や認知症の最大の危険因子にな
ると述べており、余市町の高齢
者3,600人余が難聴と推定
されるが、難聴者の実態調査を
踏まえた施策が求められている
のではないかと。

答弁 齊藤町長 聴覚の障がい
により身体障害者手帳の交付を
受けている方は91名、そのうち
補聴器交付者数は64名で、障が
いの認定を受けていない難聴の
方々への実態調査につきまして
は、現在実施予定はありません。
質問 安久議員 本町の高齢者
の約半数が難聴者であり、何ら
かの方法で実態調査を考えるべ
きではないかと。

答弁 齊藤町長 難聴者への支
援の制度設計は国で一律に設計
すべきものであると考えます。

質問 安久議員 町民で補聴器
の助成が受けられる人は、身体
障害者手帳を所持し、両耳の聴
力レベルが70デシベル以上の人
ですが、中等度難聴は40デシベ
ルの水準で、世界保健機構で

は、41デシベル以上の人への補
聴器使用を推奨しております
が、41デシベルは、普通の会話
が不自由なレベルで、慶応大学
の教授も補聴器は難聴が進行し
てからの使用ではなく、なるべ
く早く使用することが必要と述
べており、現在の公的助成の基
準に満たない高齢者の難聴への
補聴器購入助成制度の創設を国
に求め、国の制度ができるまで
町独自の支援を検討するべき
ではないかと。

答弁 齊藤町長 国で一律に制

彫谷 吉英議員

(明政会)

道の駅について

度を設計すべきと考えており、
町独自の助成の考えは現在あり
ません。

質問 安久議員 難聴者の会議
や講演で声を聞きたいという願
いに応えるため、携帯型磁気ル
ープをいろいろ催物に活用し
ている自治体もあり、難聴者を
大事にする町政の在り方を示す
ためにも、携帯型の磁気ループ
導入を検討するべきではないかと。
答弁 齊藤町長 磁気ループ導
入の考えは現在ありません。

抄状況と適切な試算や客観的な
検証はしているのか伺いたい。

答弁 齊藤町長 令和元年度及
び令和2年度に実施した道の駅
再編整備に関する調査業務にお
いては、民間事業者の創意工夫
を発揮させる余地を与えること
により財政負担の軽減、さらに
は効果的な施設運営が期待され
るとして、整備手法はPFI方式
の優位性が高いとの調査結果
が得られており、現在の調査
結果に基づき新たな道の駅に配
置すべき基本的な機能や運営の
在り方などについて検討を進め
ていますが、会計検査院の報告
においてPFI事業のコスト評
価について、金利情勢の考慮や

従来方式での競争効果の反映が
不十分といった指摘があること
は承知しておりますが、今後詳
細に検討を進める中で事業内容
及び事業手法の妥当性が確保さ
れるよう必要な検証作業を実施
します。

質問 彫谷議員 PFI事業の
妙技は、公共側にとつてリスク
が少なく、かつ民間側にとつて
事業として魅力がある線をいか
に引くかにあり、公共資金を投
入して、民間に建設工事を委託
する今までの公共事業との大き
な違いであり、PFIの特性を
生かすために民間からの提案を
受けた結果、もくろみが外れた
ら募集を取り下げ、事業自体の
是非を含めて再度考え直すこと
がぜひとも必要であり、それが
できなければ、民間の創意工夫
を取り込んだ計画は立てにくい
と考えるが、民間との共存共栄
をどのようにしていくか、町長
の考え方を伺いたい。

答弁 齊藤町長 PFIに関し
ては、優位性が高いという調査
結果が得られており、町に対し
てのメリットがないと進めるつ
もりはありませんので、今後手
法に関しても必要な作業を行
います。

中谷 栄利議員

(日本共産党議員団)

函館本線並行在 来線の存続と活 用推進について

質問 中谷議員 函館本線並行
在来線の存続と活用推進につ
いて、次の事項を伺いたい。

①北海道交通政策総合指針重点
戦略と北海道後志地域公共交通
活性化協議会(以下「協議会」)
の基本姿勢について。

②国や道の支援を求め、上下分
離方式など存続の検討について。

③有珠山噴火時の代替路線とし
ての存続について。

④後志、道内の物流を支える鉄
路としての存続について。

⑤海外観光客の後志、道内への
交通としての存続について。

⑥原子力災害の避難手段として
の存続について。

⑦ワイン観光の振興としてワイ
ン列車の走行について。

答弁 齊藤町長 ①道と協働で
きるものは連携を図り、協議会
は積極的協議に臨みます。
②経営分離に同意していること
から困難と認識していますが、

一 般 質 問



JR余市駅

あらゆる可能性を模索します。
 ③④町としては町民の移動手段について検討すべきと考えており、国や道において議論すべきものと考えます。

⑤海外観光客のみならず、余市町を訪れる方の足として重要と認識しています。

⑥被災状況に応じ関係機関、団体で調整を図るべきと考えます。

⑦実施の考えは現在ありません。

質問 中谷議員 函館本線並行在来線は沿線自治体だけの問題でなく、国・道の交通網としての役割を重視すべきではないか。

答弁 齊藤町長 函館本線全体の重要性にこの場では特にコメントすることはありませんが、協議会の中で余市小樽間は別途協議とし、町民の足、町の利益を守るべく動いています。

質問 中谷議員 国に国鉄分割民営化の総括をさせ、上下分離方式や新幹線の問題など総合的な考えを持って存続を検討する姿勢が必要ではないか。

答弁 齊藤町長 国鉄全体の話に町議会コメントすることはありませんが、余市小樽間の乗降客、輸送密度は一定数高いことから、あらゆる可能性を模索する必要があると考えます。

質問 中谷議員 函館本線の活性化としてワイン列車など鉄路を使った観光も模索するべきではないか。

答弁 齊藤町長 余市小樽間を別途協議し、維持していくスタンスであり、ワイン列車として活用を検討するつもりはありません。

岸本 好且議員 (よいち未来)

農業分野における人手不足対策について

質問 岸本議員 本町の基盤産業である果樹を中心とする農業は、これから収穫期の本番を迎えるが、本町の農業は機械化による収穫は難しく、作業は人手に頼るところが大きいため、農業経営者の負担軽減と安定経営を推し進める上で人手不足対策は喫緊の課題と考えるが、次の事項について伺いたい。

- ①外国人技能実習生の採用実態と今後の推移について。
- ②農業分野における余市町シルバーセンターの派遣の実態について。
- ③JA中央会と旅行会社の協定による人材確保の本町農業への導入について。
- ④農業分野における人材確保に向けての自治体の取組と長期展望について。

答弁 齊藤町長 ①外国人技能実習生の採用は労働力不足を補う面からも重要なものと認識し

ており、例年30名程度が採用され、今後においても不足する労働力確保の一つの方策として一定程度需要が見込まれると考えます。

②昨年度の実人数で294人、延べ3,533人が農家へ派遣され、農作業の人材確保の一端を担っていると伺っています。

③昨年より新型コロナウイルス感染症の拡大により休業等の影響を受けた旅行会社社員、各ホテル、旅館従業員から人材を募り、労働力となる人材を活用する取組ですが、本町においては作業条件や費用の面で導入については難しいと伺っています。

④日本全体が人口減少していく中、農業分野における人材確保は今後も厳しい状況が続くものと認識していますが、人材確保の取組として引き続き各種制度の活用を努め、また、農作業の省力化に向けたスマート農業取組や栽培管理の自動化、機械化を図ることで農作業効率の向上に向けた取組について関係団体と連携を図り、調査研究します。

質問 岸本議員 ③JA中央会と旅行会社の協定による人材確保は大変画期的なことであり、サクランボ収穫では山形が今年からスタートしているの、本町に合うものなのか注視して調

査研究していく価値があると考えられるが、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 ③本町に関しては、様々な労働の時間単価、交通費等で雇用条件が合わないので導入が難しいと伺っています。

白川栄美子議員 (公明党)

乳児のおむつ用品支給と出産祝金の取り組みについて

質問 白川議員 子育て世帯の経済的な負担を軽減し、安心して育児ができるよう子育てに必要なおむつ用品の支給や出産祝金に取り組んでいる自治体があるが、本町でも出産間近のお母さんや子育て中の親の要望としておむつ用品を支給してほしいとの声も寄せられており、子育てしやすい環境づくりに向けて子育て世帯の日常生活を支援する考えについて見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 財政状況が許せば積極的に子育て世代への支

一 般 質 問

援は行っていきたく、財政負担と事業強化など今後研究します。

質問 白川議員 余市町としておむつ支給をやったことはないのか伺いたい。

答弁 齊藤町長 乳児に対するおむつ支給は行ったことはありませんが、この部分は手厚くしていきたいと考えます。

質問 白川議員 一番必要とする時期におむつの支給があると助かるとの声が届いているが、そういった認識はあるか伺いたい。

答弁 齊藤町長 おむつ支給は現在行っていないが、必要な分野だと考えます。

質問 白川議員 ほかの自治体を参考にして支給しやすい取組をするべきだと考えるが、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 財政状況が許せば積極的に子育て世代への支援を行っていきたくと考えており、この分野は非常に重要と考えます。

質問 白川議員 コロナ禍で収入が減り、出産を控えている方もおり、安心して出産に臨めるよう行政の支えが必要と考えるが、出産祝金について見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 平成15年度まで実施していましたが、現在

は財政的な理由により廃止していません。

質問 白川議員 コロナ禍ですトレスを抱えながら頑張っているお母さんに、気持ちとして少しでも出産祝金を出すことについて見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 財政状況が許せば検討しますが、いずれにせよ子育て支援や出産、妊娠に対する支援は社会全体で守っていかねければ駄目な問題であり、今後の日本の将来をつくっていくことになるので、その点は手厚く投資をしていくべき分野だと考えます。



議会を傍聴してみませんか 《次の定例会は9月中旬に開催の予定です。》

- ◆本会議については、役場3階の議会事務局で、傍聴人受付簿に住所・氏名を記入するだけで傍聴できます。
傍聴定員は38人となっており、会議当日の先着順となっています。
- ◆常任委員会や特別委員会については、委員長の許可を得なければ傍聴できないことになっていますが、プライバシーにかかわる審議など特別の事情がない限り傍聴を認めています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため傍聴される場合、次のことにご協力をお願いします。

- 議場への入場時に、手指の消毒をお願いいたします。
(消毒液は出入口に設置しています。)
- 議場ではマスクの使用をお願いいたします。
- 体調のすぐれない方(発熱、せき等)は、傍聴をご遠慮願います。
- 傍聴時の「密接」を避けるため、傍聴者数を制限させていただくことがありますので、ご了承願います。

※詳しい日程などは、議会ホームページをご覧ください。また、議会事務局(TEL 21-2132)へお問い合わせください。

審 議 内 容

の 案 件	そ の 他
-------------	-------------

□工事請負契約の締結について

・令和3年度豊浜橋架替工事
 契約金額 5764万円
 工期 自 令和3年6月4日
 至 令和4年2月28日
 請負業者 中村・古垣特定共同
 企業体

□町有財産の取得について

・除雪作業車（除雪ダンプトラ
 ック）
 価格 4561万円
 取得先 UDトラックス北海道
 株式会社小樽支店

□損害賠償に係る和解及び損害 賠償額の決定について

車両破損事故による損害賠償
 に係る和解及び損害賠償額が可
 決されました。

よいち町議会だより

No.200（年4回発行）
 令和3年9月1日発行

議会のホームページはこちら

<http://www.town.yoichi.hokkaido.jp/gikai/index.html>
 随時更新し、議会からの情報発信に努めています

議会日誌

5月

- 21日 民生環境常任委員会
- 25日 議会運営委員会
- 26日 第3回臨時会

6月

- 7日 議会運営委員会
- 8日 産業建設常任委員会
- 18日 議会運営委員会
- 21～23日 第2回定例会
- 21日 議員協議会
- 22日 議会運営委員会
- 30日 総務文教常任委員会

7月

- 7日 長野県伊那市議会行政視察来訪
- 9日 議会運営委員会
- 12日 民生環境常任委員会
- 21日 総務文教常任委員会
- 27日 北後志消防・衛生施設組合議会
- 28日 産業建設常任委員会
- 29日 議会運営委員会

8月

- 18日 総務文教常任委員会

編集後記

新型コロナウイルス感染症の
 影響により1年間の延期を経て
 東京オリンピックが開催されま
 した。日本で前回夏季オリンピ
 ックが開催された1964（昭
 和39）年の2年前に当たる昭和
 37年8月、余市町は台風9号に
 による災害に見舞われ、甚大な浸
 水被害に遭い、農水産業も相当
 な被害を受けました。さらに、
 大川橋の橋脚が流され、復旧に
 は1か月を要しました。

前述の被災当時からインフ
 ラの整備や様々な取組がなされ
 て防災面では改善していますが、
 昨今は記録的豪雨による災害が
 全国的に頻発するなど、災害は
 いつ起こるか分かりません。日
 頃からの備えが大事ですが、予
 期せぬ事態が発生するとその対
 応に苦慮するかもしれません。
 新型コロナウイルス感染症につい
 ても同様に、日頃からの備えと
 責任のある行動が大切です。

私たち議員としても、まずは
 感染が広がっている新型コロナウ
 イルス感染症の収束を願い、基
 本的な感染防止に努めながら
 も、4年の任期も折り返しを迎
 えていることから、議会活動に
 も引き続き精いっぱい取り組み、
 鋭意努力してまいりたいと考え
 ております。

総務文教常任委員会

発行 余市町議会
 編集 総務文教常任委員会

〒046-8546 北海道余市郡余市町朝日町26番地
 TEL 0135-21-2132
 FAX 0135-21-2144
 Email giji.gki@town.yoichi.hokkaido.jp